

# エコアクション21

## 2023年度 環境経営レポート

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日



®環境省  
エコアクション21  
認証番号0013851

変わらない安心を、変わる技術で。



# 山本工作所

作成日 2024年4月19日

# 目次

1. 組織の概要、認証・登録対象範囲	・・・1
2. エコアクション21 実施体制	・・・2
3. 環境経営方針	・・・3
4. 環境経営目標	・・・4
5. 環境経営計画	・・・5
6. 環境経営の取組結果とその評価	・・・6-7
7. 環境関連法規などの順守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	・・・8
8. 代表者による全体の評価と見直しの結果	・・・9

# 1. 組織の概要、認証・登録範囲

事業所名	株式会社山本工作所		
代表者名	代表取締役社長	山本 和男	
設立年月日	1948年11月24日（創立年月日：1946年5月14日）		
資本金	1億円		
所在地	本社	福岡県北九州市八幡東区大字枝光 1950番地の10	
	大牟田事業所	福岡県大牟田市東泉町 21番地の1	
	鞍手事業所	福岡県鞍手郡鞍手町大字室木字岩河内 765番地の1	
	東京支店	東京都千代田区神田須田町 2-25 GYB 秋葉原 9F	
	大阪支店	大阪府大阪市西区西本町 1丁目 7番 8号柴田東急ビル 6階	
環境管理責任者	常務取締役	三木 信之	
連絡担当者名	総務部	花房 良祐	
連絡先	TEL：(093) 681-2431	FAX：(093) 681-2432	
	E-mail soumu@k-yamako.co.jp		

## 事業内容と事業規模

事業名称	産業分類	事業内容	主要製品
ドラム缶事業	金属製品製造業	ドラム缶の製造	鋼製ドラム缶
環境事業	はん用機械器具製造業	産業用機械装置の設計、製作	バグフィルタ式集塵機 電気集塵機 チューブラコンベア スーパーエルボ
請負事業	設備工事業	セメント工場向け設備保全	—
	輸送用機械器具製造業	組立業務請負	—

事業名称	売上高
	2023/4~2024/3
ドラム缶事業	6,968百万円
環境事業	1,675百万円
請負事業	886百万円
その他事業	439百万円
全社売上高	9,968百万円

※その他事業＝梱包資材、スリーブ、太陽光発電等

2023/4/1時点	本社	大牟田	鞍手	東京	埼玉	大阪	合計	鞍手除く
従業員数（人）	219	24	42	13	5	3	306	264
延べ床面積（㎡）	25,416	4,507	—	155	237	78	30,393	30,393

※従業員数は組織で働く全ての者（役員、社員、嘱託、パート、派遣）

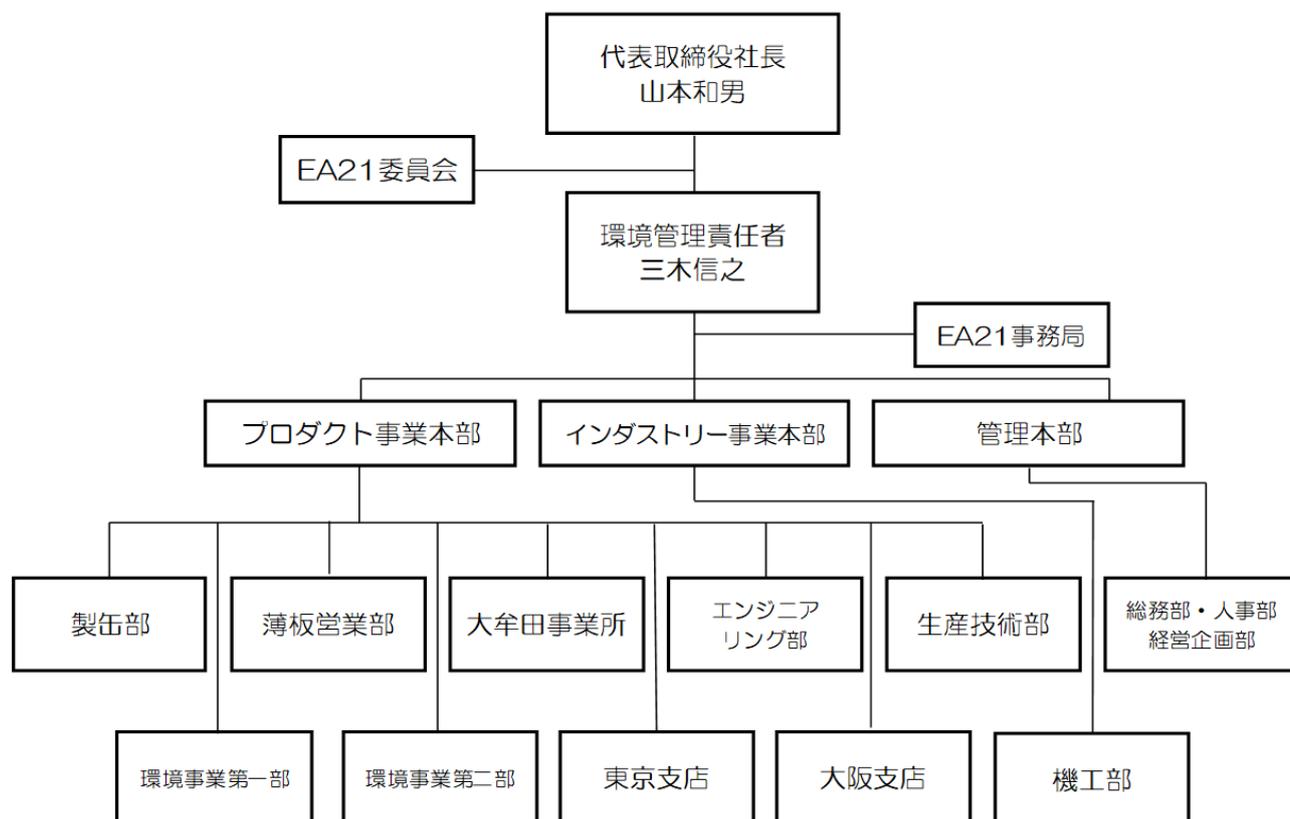
事業年度 2023年4月～2024年3月

認証・登録範囲 対象：株式会社山本工作所 本社・大牟田事業所・東京支店・大阪支店

対象外：鞍手事業所（請負事業者先でISO14001に取組中）

上記により、認証登録範囲はサイト認証としている。

## 2. エコアクション21 実施体制



氏名	役職	役割
山本和男	代表取締役社長	全体の統括、経営における課題とチャンスの明確化、環境方針の設定、実務体制の構築、環境への取り組みを実施するための資源の準備、全体の評価と見直し。
三木信之	常務取締役 管理本部長	全体の把握。環境経営システムを構築し、運用し、その状況を社長に報告する。
EA21 委員会		3ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議する。
EA21 事務局 (総務部)		EA21 文書及び記録類の作成・維持・管理。EA21 委員会の運営事務。
各本部長		EA21 委員会メンバー。 担当事業部におけるEA21の遂行を統括する。
各部長・所長・副支店長・次長		EA21 委員会メンバー。 担当部門におけるEA21の遂行を統括する。
各室長・工場長		自部門においてEA21を推進し、管理する。

## 3. 環境経営方針

### 基本理念

株式会社山本工作所は、『変化に対応し、常に新しい価値を創り出すことにより、広く社会に貢献する』という経営理念のもと、社会と地球環境に貢献できる企業活動を目指します。

また、「地球環境への配慮は企業の社会的責任と認識し環境保全を図る」を経営方針の1つとし、これを全社員が認識し、法令を遵守し自主的で積極的な地球環境改善への取り組みを行います。

これらを実現するための手段として、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し、運用することにより、継続的かつ着実に環境保全活動を行い、持続可能な社会と持続可能な会社の実現を目指します。

### 行動指針

環境経営システムを構築・運用し、継続的に環境保全活動を行います。そのため、以下の事項を重点的に取り組みます。

1. 事業活動に関連する環境関連法規、及び当社が受け入れたその他の要求事項を遵守します。
2. 電力及び燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄物の削減及び3R活動の推進に努めます。
4. 水使用量の削減に努めます。
5. 化学物質の適正使用・適正管理に努めます。
6. グリーン購入を推進します。
7. 社内の環境保全に努めるとともに、地域の美化活動等に積極的に参画することで地域社会との共生に努めます。
8. 本環境方針は、全ての社員に周知するとともに、社外一般にも開示します。

制定 2022年7月1日

株式会社山本工作所  
代表取締役社長 山本 和男

## 4. 2023年度 環境経営目標

環境経営方針を踏まえて、6つの大項目について環境経営目標を設定しました。

特にエネルギー削減に対する目標は、基準年度（2021年度）をベースとし、省エネ法の目標から、毎年1%の削減で設定しました。ドラム缶事業においては生産数量の増減による各値への影響が大きく、そのような影響が考えられる項目は原単位による目標も設定しました。

環境目標	単位	基準年度	実績	目標			
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	3,936,310.2	3,606,663.0	3,570,596.4	3,534,890.4	3,499,541.5	
1-1 電力使用量の削減	kWh	4,450,680.0	4,136,091.0	4,094,730	4,053,783	4,013,245	
	本社	kWh	3,677,880.0	3,493,630.0	3,458,694	3,424,107	3,389,866
	大牟田	kWh	750,000.0	622,000.0	615,780	609,622	603,526
	東京	kWh	13,888.0	11,263.0	11,150	11,039	10,928
	大阪	kWh	8,912.0	9,198.0	9,106	9,015	8,925
1-2 軽油使用量の削減	ℓ	2,520.0	2,176.0	2,154.2	2,132.7	2,111.4	
	本社	ℓ	1,454.0	1,457.0	1,442.4	1,428.0	1,413.7
	大牟田	ℓ	1,066.0	719.0	711.8	704.7	697.6
1-3 ガソリン使用量の削減	ℓ	19,195.0	17,810.0	17,631.9	17,455.6	17,281.0	
	本社	ℓ	17,667.3	16,264.0	16,101.4	15,940.3	15,780.9
	大牟田	ℓ	865.4	740.0	732.6	725.3	718.0
	東京・大阪	ℓ	662.3	806.0	797.9	790.0	782.1
1-4 灯油使用量の削減	ℓ	66,743.0	46,914.0	46,444.9	45,980.4	45,520.6	
	本社	ℓ	450.0	450.0	445.5	441.0	436.6
大牟田	ℓ	66,293.0	46,464.0	45,999.4	45,539.4	45,084.0	
1-5 都市ガス使用量の削減（本社）	m <sup>3</sup>	672,323.0	635,766.0	629,408.3	623,114.3	616,883.1	
1-6 液化石油ガス（大牟田）	kg	45,651.8	30,127.0	29,825.7	29,527.5	29,232.2	
2-1 廃棄物排出量の削減	t	2,915.0	2,809.8	2,781.7	2,753.9	2,726.4	
	本社	t	2,800.8	2,702.0	2,675.0	2,648.2	2,621.7
	大牟田	t	114.2	107.8	106.7	105.7	104.6
2-2 コピー用紙購入量の削減	枚	1,027,000	641,500	635,085	628,734	622,447	
3-1 水使用量の削減	m <sup>3</sup>	68,207	60,542	59,937	59,337	58,744	
	本社	m <sup>3</sup>	52,217	47,839	47,361	46,887	46,418
	大牟田	m <sup>3</sup>	15,990	12,703	12,576	12,450	12,326
3-2 排水量の削減	m <sup>3</sup>	51,706	47,074	46,603	46,137	45,676	
4 化学物質の適正利用	本社外面塗装原単位維持	g/本	142	133	132	130	129
	本社内面塗装原単位維持	g/本	254	253	250	248	245
	大牟田原単位維持	g/本	160	160	158	157	155
5 製品・サービスに関する事項	本社ドラム缶仕損率の低減	%	0.29	0.12	0.12	0.12	0.12
	本社小型缶仕損率の低減	%	1.59	1.31	1.30	1.28	1.27
	大牟田製缶仕損率の低減	%	0.56	0.46	0.46	0.45	0.45
	エンジン部クレーム費率の低減	%	0.35	2.40	2.38	2.35	2.33
6 環境への負荷が少ない製品・サービスの導入	グリーン購入比率の拡大	%	9.4%	20.0%	20%	20%	19%

（以下原単位）

環境目標	単位	基準年度	実績	目標		
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
1 本社ドラム電力原単位	kWh/本	2.14	2.12	2.10	2.08	2.06
2 本社小型缶電力原単位	kWh/本	2.09	2.02	2.00	1.98	1.96
3 大牟田ドラム電力原単位	kWh/本	2.59	2.90	2.87	2.84	2.81
4 灯油原単位（大牟田）	ℓ/本	0.23	0.22	0.22	0.22	0.21
5 ドラム都市ガス原単位（本社）	m <sup>3</sup> /本	0.45	0.44	0.44	0.43	0.43
6 小型缶都市ガス原単位（本社）	m <sup>3</sup> /本	0.50	0.47	0.47	0.46	0.46
7 液化石油ガス LPG原単位（大牟田）	m <sup>3</sup> /本	0.38	0.34	0.34	0.33	0.33

※二酸化炭素排出量算出に使用した係数は、本社・大牟田・東京は2020年度、大阪は2019年度の調整後排出係数を使用。

本社、大牟田は九州電力（0.479）、東京は東京エナジーパートナー（0.441）大阪は関西電力（0.318）の係数を用いた。

※原単位算出に使用する単位「本」はドラム缶の生産本数を表す。

## 5. 2023年度 環境経営計画

環境経営目標を達成するための実行計画として以下の通り環境経営計画を立てました。大きな省エネだけでなく、全社員が小さな省エネ活動を積み上げることも計画しました。

### 1. 二酸化炭素総排出量の1%削減

取組目標	活動項目	責任者				
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 電力使用量の削減	1 工場事務所照明のLED化	総務部	○	○	○	○
	2 離席時のPCモニターOFF	総務室（全社）	○	○	○	○
	3 ブラインド利用による日射遮蔽	総務室（全社）	○	○	○	
	4 不在時の消灯	総務室（全社）	○	○	○	○
	5 不要時の電源OFF	総務室（全社）	○	○	○	○
	6 老朽空調機の更新検討	総務室	○	○	○	○
	7 室外機の冷却対策	総務室		○		
	8 空調機等フィルター清掃	総務室			○	
	9 更衣室照明の人感センサー化	総務室				○
2 軽油使用量の削減	1 フォークリフトの適正使用	製缶部	○	○	○	○
3 ガソリン使用量の削減	1 「エコドライブ10のすすめ」実行	総務室（全社）	○	○	○	○
4 灯油使用量の削減	1 ボイラー更新による削減	大牟田事業所	○	○	○	○
	2 部品洗浄時の適正利用	製缶部	○	○	○	○
5 都市ガス使用量の削減	1 乾燥炉稼働時間短縮	本社製缶工場	○	○	○	○
6 液化石油ガス使用量の削減	1 乾燥炉稼働時間短縮	大牟田事業所	○	○	○	○

### 2. 廃棄物総排出量の1%削減

取組目標	活動項目	責任者				
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 産業廃棄物の削減	1 分別の徹底	総務室（全社）	○	○	○	○
2 一般廃棄物の削減	1 分別の徹底（廃棄、売却、リサイクル）	総務室	○	○	○	○
	2 適切な回収業者の探索・選定	総務室	○	○	○	○
	3 KAMIKURUプロジェクト導入（紙資源の循環）	総務室（全社）	○	○	○	○
4 コピー用紙使用量の削減	1 両面・集約機能の活用	総務室（全社）	○	○	○	○
	2 配布資料の削減・厳選	総務室（全社）	○	○	○	○
	3 印刷部数の適正化（余剰なし）	総務室（全社）	○	○	○	○

### 3. 水使用量の1%削減

取組目標	活動項目	責任者				
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 水使用量の削減	1 節水表示実施	総務室	○	○	○	○
	2 節水こまの設置検討	総務室	○	○	○	○
	3 漏水点検	総務室	○	○	○	○

### 4. 化学物質使用量の適正使用

取組目標	活動項目	責任者				
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 本社製缶工場原単位の維持	1 毎月の原単位確認	本社製缶工場	○	○	○	○
2 大牟田製缶工場原単位の維持	1 毎月の原単位確認	大牟田事業所	○	○	○	○

### 5. 製品・サービスに関する取り組み

取組目標	活動項目	責任者				
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 製缶部門不良率の低減	1 本社製缶工場仕損率の低減	製缶部	○	○	○	○
	2 大牟田製缶工場仕損率の低減	大牟田事業所	○	○	○	○
2 厚板部門製品性能の向上	1 クレーム発生の低減	エンジニアリング部	○	○	○	○

### 6. 環境への負荷が少ない製品・サービスの導入

取組目標	活動項目	責任者				
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 グリーン購入比率の拡大	1 事務用品中の金額比率拡大	総務室	○	○	○	○
2 名刺の再生紙化	1 名刺の再生紙化	総務室	○	○	○	○

### 7. 会社周辺の清掃

取組目標	活動項目	責任者				
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 清掃活動	1 定期清掃（社内・正門付近）	総務室（全社）	○	○	○	○
	2 東田清掃活動参加（6月、12月）	総務室（全社）	○		○	

## 6. 2023年度 環境経営の取組結果とその評価

### (1) 2023年度における環境経営目標の実績と評価

環境目標	単位	基準年度	2023年度	2023年度	当期間の評価			
		2021年度	目標	実績	判定	コメント		
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	3,936,310	3,570,596	3,665,945	×	生産量増減による影響もあるが、工場内自動化設備の新設や熱中症対策（空調機台数増加）によるエネルギー消費量が増加。それに比例しCO2排出量も増加。	11 住み続けられるまちづくりを	
1	1-1 電力使用量の削減	kWh	4,450,680	4,094,730	4,206,195	×	11 住み続けられるまちづくりを 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 12 つくえ責任 つながる責任 13 気候変動に具体的な対策を	
		本社	kWh	3,677,880	3,458,694	3,463,256		×
		大牟田	kWh	750,000	615,780	721,900		×
		東京	kWh	13,888	11,150	12,447		×
		大阪	kWh	8,912	9,106	8,592	○	
	1-2 軽油使用量の削減	ℓ	2,520	2,154	2,328	×	12 つくえ責任 つながる責任 13 気候変動に具体的な対策を	
		本社	ℓ	1,454	1,442	1,308		○
		大牟田	ℓ	1,066	712	1,020	×	
	1-3 ガソリン使用量の削減	ℓ	19,195	17,632	16,900	○	12 つくえ責任 つながる責任 13 気候変動に具体的な対策を	
		本社	ℓ	17,667	16,101	15,180		○
		大牟田	ℓ	865	733	542		○
		東京・大阪	ℓ	662	798	1,178		×
	1-4 灯油使用量の削減	ℓ	66,743	46,445	59,707	×	13 気候変動に具体的な対策を	
		本社	ℓ	450	446	470		×
大牟田		ℓ	66,293	45,999	59,237	×		
1-5 都市ガス使用量の削減（本社）	m³	672,323	629,408	626,137	○	生産量が少なかった影響もあるが、2022年10月に工場乾燥炉の稼働時間の見直しを行ったことも使用量削減に影響。		
1-6 液化石油ガス（大牟田）	kg	45,652	29,826	34,539	×	大牟田は生産量が多かったことにより使用量も増加。		
2	2-1 廃棄物排出量の削減	t	2,915	2,782	2,558	○	15 陸の豊かさも守ろう	
		本社	t	2,800.8	2,675	2,440		○
	大牟田	t	114.2	106.7	118.3	×		
2-2 コピー用紙購入量の削減	枚	1,027,000	635,085	559,200	○	使用者の意識高揚。（両面・集約等の活用、モニター活用による削減）		
3	3-1 水使用量の削減	m³	68,207	59,937	59,594	○	12 つくえ責任 つながる責任	
		本社	m³	52,217	47,361	45,744		○
		大牟田	m³	15,990	12,576	13,850		×
	3-2 排水量の削減	m³	51,706	46,603	45,117	○		
4 化学物質の適正利用	本社外面塗装原単位維持	g/本	142.1	132	133	×	8 働きがいも 経済成長も	
	本社内面塗装原単位維持	g/本	253.9	250	253	×		
	大牟田塗装原単位維持	g/本	157.5	158	160	×		
5 製品・サービスに関する事項	本社ドラム缶仕損率の低減	%	0.30	0.12	0.12	○	11 住み続けられるまちづくりを	
	本社小型缶仕損率の低減	%	1.64	1.30	1.31	×		
	大牟田製缶仕損率の低減	%	0.56	0.46	0.46	○		
	エンジン部クレーム率の低減	%	0.35	2.38	0.00	○		
6 環境負荷が少ない製品・サービスの導入	グリーン購入比率の拡大	%	9.4%	20%	20.0%	○	事務用品（グリーン購入）購入実績の見える化により製品選択の意識向上。	

原単位実績・評価

環境目標	単位	基準年度	2023年度	2023.4～	当期間の評価	
		2021年度	目標	累計実績	判定	コメント
1 本社ドラム電力原単位	kWh/本	2.14	2.10	2.72	×	大牟田は生産量が増えたことによる原単位改善。
2 本社小型缶電力原単位	kWh/本	2.09	2.00	2.72	×	
3 大牟田ドラム電力原単位	kWh/本	2.59	2.87	2.67	○	
4 灯油原単位（大牟田）	ℓ/本	0.23	0.22	0.22	○	
5 ドラム都市ガス原単位（本社）	m³/本	0.45	0.44	0.49	×	
6 小型缶都市ガス原単位（本社）	m³/本	0.50	0.47	0.49	×	
7 液化石油ガスLPG原単位（大牟田）	m³/本	0.38	0.34	0.32	○	

## (2) 2023 年度における環境経営計画の取組結果とその評価

### 1. 二酸化炭素総排出量の1%削減

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 電力使用量の削減	1 工場事務所照明のLED化	総務部	○	社内照明はほぼ全LED化完了
	2 離席時のPCモニターOFF	総務室（全社）	○	浸透見られる。
	3 ブラインド利用による日射遮蔽	総務室（全社）	○	ブラインド設置窓は基本遮蔽ができています。
	4 不在時の消灯	総務室（全社）	△	昼休み、残業時の不要電灯の消灯は出来ている。（不在時消灯漏れ有）
	5 不要時の電源OFF	総務室（全社）	○	昼休みの消灯、残業時の不要消灯
	6 老朽空調機の更新検討	総務室	○	管理状態は良好。
	7 室外機の冷却対策	総務室	△	一部、室外機に遮熱シートを貼付。継続して取り組み。
	8 空調機等フィルター清掃	総務室	○	実施
	9 更衣室照明の人のセンサー化	総務室	○	2024年3月に設置完了。
2 軽油使用量の削減	1 フォークリフトの適正使用	製缶部	○	長時間停止時のエンジントップ実施。
3 ガソリン使用量の削減	1 「エコドライブ10のすすめ」実行	総務室（全社）	○	実施確認は難しいが、意識は高まり、使用量の減少につながっている。
4 灯油使用量の削減	1 ボイラー更新による削減	大牟田事業所	○	更新完了
	2 部品洗浄時の適正利用	製缶部	○	規定に従った利用を実施。
5 都市ガス使用量の削減	1 乾燥炉稼働時間短縮	本社製缶工場	○	実施中
6 液化石油ガス使用量の削減	1 乾燥炉稼働時間短縮	大牟田事業所	○	実施中

### 2. 廃棄物総排出量の1%削減

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 産業廃棄物の削減	1 分別の徹底	総務室（全社）	○	分別出来ている。
2 一般廃棄物の削減	1 分別の徹底（廃棄、売却、リサイクル）	総務室	○	
	2 適切な回収業者の探索・選定	総務室	△	
3	3 KAMIKURUプロジェクト導入（紙資源の循環）	総務室	○	浸透見られる。
4 コピー用紙使用量の削減	1 両面・集約機能の活用	総務室（全社）	○	コピー用紙使用量は顕著に減小。
	2 配布資料の削減・厳選	総務室（全社）	○	
	3 印刷部数の適正化（余剰なし）	総務室（全社）	○	

### 3. 水使用量の1%削減

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 水使用量の削減	1 節水表示実施	総務室	○	掲示済み。
	2 節水こまの設置検討	総務室	△	随時、設置検討中。
	3 漏水点検	総務室	○	未使用時（夜間）のメーター確認。（日々）漏水を複数回確認。

### 4. 化学物質使用量の適正使用

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 本社製缶工場原単位の維持	1 毎月の原単位確認	本社製缶工場	○	生産量の減少や工場設備の自動化及び熱中症対策により悪化。管理状態は良好。
2 大牟田製缶工場原単位の維持	1 毎月の原単位確認	大牟田事業所	○	目標値に対し、原単位がやや悪化するも、管理状態は問題ない。

### 5. 製品・サービスに関する取り組み

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 製缶部門不良率の低減	1 本社製缶工場仕損率の低減	製缶部	○	問題なし。
	2 大牟田製缶工場仕損率の低減	大牟田事業所	○	問題なし。
2 厚板部門製品性能の向上	1 クレーム発生の低減	エンジニアリング部	○	クレーム比率は大きく低減。

### 6. 環境への負荷が少ない製品・サービスの導入

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 グリーン購入比率の拡大	1 事務用品中の金額比率拡大	総務室	○	購入比率上昇。（目標値達成）
2 名刺の再生紙化	1 名刺の再生紙化	総務室	○	2023年9月発注分から再生紙に切り替え。

### 7. 会社周辺の清掃

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 清掃活動	1 定期清掃（社内・正門付近）	総務室（全社）	○	定期実施が定着している。
	2 東田清掃活動参加	総務室（全社）	○	6月実施（平日）10名参加。12月実施（休日）25名参加。

## 【八幡東田緑地ボランティア清掃活動の様子】



## 【北九州環境ミュージアムにて当社ドラム缶・小型缶を展示】



北九州環境ミュージアムにて開催された 企業とSDGs展『地球に優しい「スチール缶」』に当社が製造したドラム缶を展示しました。【展示期間：2024年1月27日～2024年3月22日】

### (3) 2024年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境経営目標は2023年度の取り組み結果の1%削減を目標に設定します。

2023年度は全社員で取り組む小さな省エネ活動に取り組みと併せて、2030年までにCO2排出量46%削減（2013年度比）を目標とした、経営活動を継続していきます。

## 7. 環境関連法規などの順守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

当社が遵守しなければならない主な環境関連法規等は次の通りです。

公害防止組織法	大気汚染防止法	水質汚濁防止法 (瀬戸内法)	悪臭防止法
騒音規制法	土壌汚染対策法	浄化槽法	化管法 (PRTR法)
工場立地法	温対法	省エネ法	消防法
労働安全衛生法	高圧ガス保安法	廃棄物処理法	フロン排出抑制法

上記項目の遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。なお、関係当局より、違反等の指摘及び訴訟もありませんでした。

## 8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

		項目	評価の内容	
全体評価		環境への取組は適切に実施されているか	適切に実施されている。また、目標に対する進捗状況や環境関連情報を定期的に発信しており、社員の意識高揚が図られている。	
		経営環境システムが有効に機能しているか	経営環境システムについては、有効に機能している。	
		対象	変更の有/無	見直しの内容
見直し項目		エコアクション21実施体制	有	実施体制における役割等の変更はありませんが、吸収分割による会社統合等を含む一部組織の追加あり。
		環境経営方針	無	現在の環境経営方針を継続して実施。
		環境経営目標・計画	無	環境経営目標の見直しはなし。 環境経営計画についてはCO2削減を目標とした経営活動を継続していく。
		その他取組項目の見直し	無	特になし。

### <<全体評価コメント>>

2023年5月にエコアクション21認証登録を取得し、1年が経過しました。

環境経営目標として2022年度実績から1%削減を目標として省エネ活動に取り組んでまいりました。2023年度は生産量の減少や工場自動化設備への更新に伴うエネルギー消費量増加等の影響もあり、目標未達もありましたが、環境経営計画に掲げている小さな省エネ活動においては、事務所と工場が一体となって環境に配慮した行動を心がけ、徐々に浸透が見られてきました。

今後も環境経営システムと環境保全に対する個々人の意識高揚を図るとともに、この小さな省エネ活動の積み上げこそが肝要であると考え、継続した取り組みとして推進してまいります。

併せて、弊社は2030年度までにCO2排出量46%削減(2013年度比)を目標とした経営活動を継続してまいります。

**株式会社 山本工作所**

**代表取締役社長 山本 和男**